

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：岡本亜耶子 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 先輩－後輩関係から学ぶピアラーニングの思考過程－援助的関係をつくるコミュニケーションスキルの教育実践を通して－	共著	2021 年	日本看護学教育学会誌 31 巻 2 号	看護学の初学者である 1 年生が援助的関係をどのように意識し行動していくのか、ピアラーニングの思考過程を明らかにした。ピアラーニングによって自己を捉えなおす省察能力が育まれ、看護職に必要な行動様式の共有へ繋がっていく思考過程が明らかになった。思考過程の中で自己変容に対する主体的な意思を生み出していた。 (二井矢清香, 鍵浦文子, 杉野美和, <u>岡本亜耶子</u> , 三味祥子) (共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
2 (学術論文) 異学年協同学習におけるピアサポーターの学習効果－教える経験から自ら学ぶ力を育む－	共著	2021 年	広島国際大学看護学ジャーナル第 18 巻 1 号	先輩－後輩関係という異学年による協同学習において、2 年生がピアサポーターとして 1 年生に教える経験を通して獲得した指導能力とピアサポーターを体験することで得られた成果を明らかにした。 (三味祥子, <u>岡本亜耶子</u> , 鍵浦文子, 二井矢清香) (共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
3 (学会発表) 基礎看護学実習前・後に 1 年次生が捉えた援助的関係の思考の変化	共著	2020 年	第 40 回日本看護科学学会学術集会	看護大学 1 年次生が援助的関係をどのように理解していくのか、実習前と実習後のレポートから、学生の思考の変化を明らかにすることを目的とした。患者への関心に基づく経験や自己を振り返る経験が、援助的関係を捉える思考に変化をもたらすことが明らかになった。 (<u>岡本亜耶子</u> , 二井矢清香, 鍵浦文子, 杉野美和, 三味祥子) (共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
4 (学会発表) Changes in thinking about the supporting relationship captured by first-year students of Nursing Colleges in Japan: Report analysis before and after the practice from the viewpoint of communication theory of J. Dewey	共著	2021 年	ICN2021 Virtual	日本の看護基礎教育では、援助的関係に関するカリキュラムが講義、演習、実習という一連の過程で構成されている。この学習過程を通して、1 年生が援助的関係をどのように理解していくのか、その思考の変化を J. Dewey のコミュニケーション論を視点として明らかにした。 Okamoto, A., Niiya, K., Kagiura, F., & Sanmi, S.
5 (その他) 先輩－後輩関係から学ぶピアラーニングの教育実践②－1 年生の教育効果－	共著	2021 年	メディカ出版ラポールコミュニティ	援助的関係をつくるコミュニケーションスキルの授業に導入している、先輩－後輩関係から学ぶピアラーニングについて、1 年生の教育効果を報告した。 2021 年 5 月 21 日掲載 (<u>岡本亜耶子</u> , 二井矢清香, 鍵浦文子, 三味祥子)